

平成24年度研究科横断型教育プログラム(Aタイプ) 授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科開講型)	研究科名	経営管理大学院			横断区分	文理横断型		開講場所	総合研究2号館 大講義室
授業科目名	グローバル人材養成講義					講義担当者 所属・氏名	経営管理大学院 澤井 克紀			
配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	2単位	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>高齢化、高い公的債務負担率、人口減少等々複雑な課題を抱えているなか、日本としては、その立場に相応しい国際的な活躍の場を自ら求め、否応なしに国際社会に関わっていかざるを得ないことは自明であろう。それが、昨今グローバル人材の育成が急務であるという議論の背景にある。しかしながら、そもそも学生諸君がグローバルな社会の仕組み、国際ビジネスのマナー等に接する機会は限定的であり、グローバル人材へのキャリアパスについてもロールモデルがあるわけではない。本事業では、国際機関や国際ビジネスの第一線で活躍している講師によるシリーズの講義を通じて、グローバル社会を理解し、日本と国際社会の関わり、自らの関わり、さらには、求められるグローバル人材像について考察することを目的とする。</p>										
〔研究科横断型教育の概要・目的〕										
<p>学部生・院生を問わず、また理系・文系を問わず、国際的な広い視野を養い、グローバルな人材の養成を目財している。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>国際機関や国際ビジネスの第一線で活躍している講師陣が、実際に国際ビジネスの中で経験をした事象を交えての講義において、国際社会のポリテックスや競争、意思決定方法、多文化マネジメント等について自ら考察し、議論することを期待する。それらの授業を通じて、国際社会における日本と自分自身の立つ位置は？グローバル人材像とは？等の課題に関して、適宜レポート提出を課す。なお、授業スケジュールは講師の都合で変更される場合や、スケジュール以外の特別講義を実施する場合がある。</p>										
<ol style="list-style-type: none"> 1. 何故今グローバル人材なのか(概論) 2. 国際機関で働くということ(例) <ol style="list-style-type: none"> 2. 1 世界銀行(世銀、IFC) 2. 2 アジア開発銀行 2. 3 アフリカ開発銀行 2. 4 米州開発銀行 2. 5 国連(UNDP 他) 3. 日本とグローバル社会(例) <ol style="list-style-type: none"> 3. 1 外務省／大使館 3. 2 JBIC／JICA 3. 3 経団連 3. 4 国際ビジネス(商社) 3. 5 国際ビジネス(金融) 3. 6 国際ビジネス(運輸) 3. 7 国際ビジネス(Public Relation) × 2 3. 8 国際ビジネス(報道) 4. グローバル人材のキャリアパスとは(国際人と言われている方々の講義)(2、3回)等 										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
授業での貢献、レポート提出等を踏まえ総合的に評価する										

〔教科書〕
なし
〔参考書等〕
なし
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕
なし